

平成29年度 人権集会 要旨

鳴子台中学校は「お互いに違いがあるけれど…! am OK, You are OK!」という意識がもてるようにと、様々な機会を通して、生徒の皆さんに働き掛けています。「思いやりをもち、発揮できるようになる」ことで、いじめのない、互いを認め合う学校に近づいていけると考えます。

まずは、名古屋市教育委員会が作成した、ING（いじめのない学校づくり）のメッセージDVDを見ましょう。そこには、いじめが起こる仕組み、いじめから友達を助けるコツや思いやりを発揮するためのヒント、いじめられた時の心のもち方などが説明されています。

思いやりを発揮するまでには、共通した心の動きがあります。その動きは4つの段階でできています。この4つの段階を確認することで、自分が思いやりを発揮するときに、妨げになっている部分を知ることができます。【参考：岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科 菊池章夫教授『思いやりを科学する』】

＜高齢者に席を譲る場面＞

【第1段階：ものやことに気付く】

高齢者が乗ってきたことに気付く。

【第2段階：支援の内容が分かる】

座る席が必要な方だと分かる。

【第3段階：支援者は自分だと判断する】

席を譲るのは自分だと判断する。

【第4段階：支援を行うときの負担を覚悟する】

断られたときの恥ずかしさ、譲った後の疲れ具合などを覚悟する。



思いやりの発揮



<いじめに対応する場面>

【第1段階：ものやことに気付く】

友達の様子がおかしいことに気付く。

【第2段階：支援の内容が分かる】

助けが必要だと分かる。

【第3段階：支援者は自分だと判断する】

助けるのは自分だと判断する。

【第4段階：支援を行うときの負担を覚悟する】

助けた時に起こるだろう自分への圧力などを覚悟する。



思いやりの発揮

それぞれの段階は、人によってクリアすることに難易があります。第1段階のものやこと、異変に気付きやすい人もいれば、なかなか気付けない人もいますでしょう。

第2段階については、支援が必要なのか、見守ってあげればいいのか、気にしなくていいのか、ケースバイケースです。しかし、こといじめに関しては、ぜひ、気に掛けるようになりたいものです。

第3段階は、人任せにしてしまう人なのか、知らんぷりしてしまう人なのか、ほっとけないと思う人なのか、ほっとけない人でないと先には進めませんね。

そして、第4段階、これはDVDにもあったように、知恵を働かせることで、勇気を出したり覚悟を決めたりがしやすくなります。

どうか皆さん、思いやりをかけてもらった、うれしさやありがたさを思い出して、思いやりを発揮できる人になることを期待しています。